

## 成果の説明書

(氏名) 安田 慎	(学部) 地域政策学部
<b>1 重要事項</b>	
<b>研究</b>	
<b>&lt;書籍&gt;</b>	
(1) Yasuda, S. 2019. The Selfie in Islamic Pilgrimages as a Communication Tool in Hajj and Umrah. In R. Dowson, M. J. Yaqub & R. Raj. <i>Spiritual and Religious Tourism: Motivations and Management</i> . Wallington: CABI, pp. 51-58.	
(2) 安田 慎. 2019. 「地域・時代のなかの巡礼経験／地域・時代を超える巡礼経験 — リチャード・バートンの『アル＝マディーナとマッカへの巡礼私記』を読む」上智大学文学部史学科編. 『歴史家の調弦』ぎょうせい、pp. 198-215.	
<b>&lt;論文&gt;</b>	
(1) Yasuda, S. 2020. Divine Materiality of the Vanished Şahāba: Religious Commodification of Ḥujr b. ‘Adī al-Kindī in Syria. <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i> 13: 56-68.	
<b>&lt;事典項目&gt;</b>	
(1) 安田慎. 2019. 「イスラーム」白坂蕃・稲垣勉・小沢健市・古賀学・山下晋司編『観光の事典』朝倉書店、pp. 356-357.	
<b>&lt;学会発表&gt;</b>	
(1) Yasuda, S. 2019. Rethinking Islamic Leisure: Islamic Tourism, Religious Entertainment, and Moral Economy in the Concept of <i>Maqasid Sharia</i> . 11th Annual International Religious Tourism and Pilgrimage Conference, Singidunum University (Belgrade, Serbia), June 2019.	
(2) Yasuda, S. 2019. Changing the Capital Flow in the Name of Islamic Tourism: Challenge of Islamic Resort in Maldives. 13 <sup>th</sup> Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance. Kyoto University (Kyoto, Japan), 24 Sep 2019.	
(3) 安田慎. 2019. 「イスラーム遺産論試論—宗教の資源化をめぐる—」西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究 研究会、筑波大学東京キャンパス、2019年11月3日.	
(4) 安田慎. 2019. 「ツーリズム・コモンズ論としての観光政策論試論：ツーリズム・ジレンマから観光を捉えなおす」日本観光研究学会第34回年次大会、名桜大学、2019年12月8日.	
(5) 安田慎. 2020. 「観光研究から中東の旅行・観光を概観する」人間文化研究機構 (NIHU) 基幹研究プロジェクト「現代中東地域研究」若手共同研究事業「中東における旅行・観光の歴史的展開と現代の諸相」第2回研究会、上智大学四ツ谷キャンパス、2020年1月27日.	
(6) Yasuda, S. 2020. The Emergence of Local Resilience in the Age of War: Crisis and Recovery of Syrian Community-based Tourism in Digital Sphere. 2dn International Conference of Critical Tourism Asia and Pacific, Wakayama University (Wakayama, Japan), 19th Feb 2020.	
<b>&lt;国際ワークショップ主催&gt;</b>	
(1) イギリスより Razaq Raj (Leeds Beckett University) を招聘し、International Workshop on the Impact of Finance in Islamic Tourism を主催した。	
<b>&lt;その他&gt;</b>	
(1) 査読2本(国内誌1本、書籍1本)を行った。	

(2) 国内学会 2 回・国際会議 1 回の計 3 回、座長としてセッションを担当した。

## 教育

- (1) 担当科目（観光政策論、ツアープランニング論、観光学概論、グループ研究、初年次ゼミ、基礎演習、演習 I）について、講義設計を見直して授業を実施した。
- (2) ゼミナール所属学生とともに、シンガポールにおいて「シンガポールにおける観光のデジタル・マーケティングをめぐる実地調査」をテーマに、海外フィールドワークを実施した（9 月 9～13 日）。また、ゼミナール所属学生とともに、短期のフィールドワークを数回実施した。

## 社会貢献

- (1) 地域科学研究所の連携公開講座において「リスク社会のなかの観光 中東・ドバイから考える」を行った（2019 年 6 月 15 日）。
- (2) 育英短期大学にて写真展「等身大のアジアを生きる」と、公開講座「アジアをより深く楽しく理解するために」（2019 年 10 月 26 日）を行った。
- (3) 大学の広報活動の一環として、夢ナビライブ大阪 2019 にて高校生向けに「モロッコ文化遺産から観光の公共性を考える」の講義を行った（2019 年 7 月 24 日）。
- (4) 地域科学研究所主催の地域経営セミナーのオーガナイザーとして、「観光公害時代の地域政策を考える」の企画に携わった（2019 年 11 月 15 日）。
- (5) 群馬大学男女共同参画推進室主催の中間総括シンポジウムにおいて、パネリストの一人として参加し、男性研究者の立場から男女共同参画について発表を行った（2019 年 11 月 29 日）。

## 2 その他の事項

### <委員等>

- ・日本中東学会 事務局長
- ・11<sup>th</sup> 12<sup>th</sup> Religious Tourism and Pilgrimage Conference Science Committee
- ・観光学術学会 広報委員、次世代検討委員会委員
- ・International Journal of Religious Tourism and Pilgrimage Editorial Board

### <共同研究等>

- ・日本学術振興会 科研費 基盤研究(A)「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」研究分担者
- ・日本学術振興会 科研費 新学術領域研究(研究領域提案型)「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」研究分担者
- ・日本学術振興会 科研費 基盤研究(A)「イスラーム神秘主義の構造的理解・スーフイズム・タリーカ・聖者信仰複合現象の解明」研究協力者
- ・日本学術振興会 科研費 基盤研究(A)「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」研究協力者

## 3 次年度以降の計画・抱負

- ・研究：・現在編集中の論文・書籍の出版に尽力するとともに、進行中の個人・共同研究プロジェクトについて、発表・論文等を通じて社会還元を努める。
- ・教育：・担当科目について、付随資料の充実を図り、学生の理解促進に努める。
  - ・ゼミ生とともに演習 I・II のカリキュラム内容を充実させる。
- ・社会貢献：・社会向けの講座・講演の他、社会に還元できる手法の開拓を目指す。特に、ウェブ・SNS を通じた研究成果の社会還元の可能性を探る。